



相川

新一年生を交え全校児童で交通安全教室

5月2日



ゴールデンウィーク中の5月2日に、金泉小学校で全校児童74名を対象に交通安全教室が行われました。視聴覚教室で北狄駐在所のおまわりさんによる講話と、ビデオを見ての交通安全教室となりました。おまわりさんは新1年生にもわかるように話をしていました。この交通安全教室は、毎年行われているそうです。

新1年生のみなさん、交通ルールを守って事故に遭わないようにしましょう。

新穂

青木山牧場で開牧式

5月11日



小佐渡山中、標高370mにある青木山牧場に新穂、畑野、赤泊地区の酪農家から委託された黒毛和牛13頭が放牧されました。

当日、関係者らが見守る中、獣医師から検査を受けた牛たちは次々と放され、最初は広い牧場に戸惑っている様子でしたが、徐々に行動範囲を広げて牧草を食べていました。牛たちは10月下旬まで放牧され自然の中で大きくなっていくそうです。

両津

湊まつり

5月4、5日

湊地区において、地区の鎮守八幡若宮社はちまんわかみやしゃの祭礼である湊まつりが催されました。期間中は、お神輿渡御みこしやあばれ獅子、名物であるねり神輿みこしなど多くの伝統行事が催され、町はまつり一色となりました。



佐和田

今年も好評!春を味わう

5月13日



沢根五十里地区で5回目となる、山菜を食べる集い「長閑のどか」が開催されました。竹の子・せりのお吸い物や春の山菜ちらし寿司など、旬の食材を目当てに40人をこえる人が集まり、春の滋味を堪能していました。余興に剣舞や、ひやかし節なども披露され、休日の午後のひと時はゆったりとした雰囲気になりました。

畑野

長谷寺ぼたんまつり

5月12、13日



「長谷寺ぼたんまつり」が開かれ、艶やかに開花したボタンに誘われて1,800人もの善男善女が入山し賑わいました。暖かい日差しを受けて咲き誇るボタン庭園を

背景に、たえなる琴の調べに溶け込む野点茶席が設けられたり、小倉の子供鬼太鼓や春駒が披露されるなど、皐月晴れの楽しいひとときでした。両日も、富田住職解説による県指定の文化財が拝観できるとあってか、「特別寺宝展」には240人が訪れる盛況でした。

ボタンの見頃は終わりましたが、「花の寺」の余韻を残しつつ、6月の霧島ツツジやアジサイの開花が待たれます。



羽茂 **グランドフェスタはもち**
第10回 5月20日



健康の増進と住民相互の親睦を目的に「グランドフェスタはもち」が開催されました。前日の雨でグラウンドが使えず、羽茂小学校体育館での開催となりましたが、11チームが勢ぞろいしてレクリエーション種目に熱戦を繰り広げました。そして今年は西方チームがみごと優勝の栄冠に輝きました。

運動会という名称をグランドフェスタに変更してから10年目を迎えました。小学生から60代まで選手として集えるこの行事がますます盛んになってほしいものです。

赤泊 **異文化国際交流 5月17日**
～ワークショップ開催～

赤泊地区では平成4年から国際交流事業を行っています。今回は赤泊演劇研究会の主催でインド・マニプリ民族舞踊団を招き、赤泊小学校でワークショップが開催されました。舞踊団の回転しながら太鼓を叩いたり、きらびやかな衣装での優雅な踊りが披露されると、児童たちから歓声と共に、大きな拍手がわきました。また、選ばれた児童が盾と剣を手に、足の動きや体の向きなど、舞踊の一幕を習う様子を、児童たちは真剣に見入っていました。



最後に、舞踊団の皆さんと児童とで輪になって踊り、賑やかに交流をした後、全校児童で歌をプレゼントしました。

真野 **トビシマカンゾウの植栽**
長浜海岸

さわやかな初夏の風を感じる5月16日。

佐渡総合高校3年生20名と先生方、そして佐渡南ロータリークラブ9名の方々がトビシマカンゾウの植栽を行いました。今年で7回目になります。

700株のカンゾウ苗が長浜海岸国道350号線沿い、人面岩駐車場(背合)前の斜面に一株ずつ植えられ、きれいに咲く日を待っています。

長浜海岸には自生のカンゾウのほか、平成4年からのべ6,700本のカンゾウが植栽されています。

「人面岩の駐車場に車を止めて」真野湾に沈む夕日を浴びて咲くカンゾウの花は5～6月お楽しみいただけます。



金井 **佐渡看護専門学校戴帽式**
5月25日



新潟県厚生連佐渡看護専門学校において、第6回戴帽式が行われました。

第6期の戴帽生は2年生32名で、これまでの修学により看護師としての適性が認められたとして、キャップが与えられました。

ナイチンゲール像のキャンドルから^{ともしび}灯火を受け継いだ学生達は、新たな決意の表情でした。

戴帽生は、今後2年間の実習や学習を経て、医療従事者を目指します。

小木 **佐渡小木さざえまつり**
のお知らせ

小木地区の特色を生かしたイベントとして、6月16日(土)に「さざえ」のつかみ取りやたらい舟競漕日本一レース「どれだけ漕げるでしょう?」など、盛りだくさんの企画で「さざえ祭り」が開催されます。

7月・8月のイベントでは、タイマツの灯をたよりに、浅瀬でのさざえのつかみ取り、民謡鑑賞とおけさ踊りを楽しみながら、さざえのつぼ焼きを堪能しませんか?



お問い合わせ 佐渡小木さざえ祭り実行委員会 ☎86-3200

首都圏情報コーナー

関東畑野会を開催

5月12日緑風のもと、関東畑野会第25回総会が都内のホテルで開催されました。

佐渡市長代理荒企画財政部長、藤井畑野支所長、高橋東京新潟県人会副会長、摩尼首都圏佐渡連合会会長をはじめ、多数の来賓からご臨席いただき、総勢130名の会となりました。今井会長の挨拶、議事に続き、高野市長からの佐渡市の近況等についてのメッセージが荒部長より披露され、高橋副会長、摩尼会長が、それぞれ祝辞を述べられました。

新潟館ネスパス青木館長による力強い乾杯の音頭により懇親会に入ると、心地よい笛の音とともに佐渡の伝統芸能である大黒様が登場、なんと2人です。愛嬌ある顔と振る舞いで、会場は一挙にえびす顔に変わりました。続いて、郷土民謡の歌と踊りで、相川音頭、佐渡おけさと続きます。次はカラオケコーナー。会員による自慢ののどを聞かせる場です。自分の番はまだかまだかと列が続きます。最後は恒例の佐渡おけさの輪踊り。広い会場いっぱい輪ができてあがりました。小休止の後、また踊りが続き、気がつけば予定時間は過ぎ、藤井畑野支所長の万歳三唱でお開きとなりました。「ふるさと」のメロディが流れる中、来年の再開を約してホテルを後にしました。



(関東畑野会事務局長 元田利夫)

「しまづくりキャラバン2007in大阪」に佐渡島から参加出展

5月3日～6日、国土交通省主催による離島地域と都市との交流促進を図るイベントが、インテックス大阪会場で開かれました。

今年で4回目となるこのイベントには、大竹副市長をはじめ、環境課・企画振興課の担当者と、大阪在住佐渡高校OB、新潟県大阪事務所、佐渡汽船、新潟交通の出先関係者(延べ16名)から応援を得ました。初日は大竹副市長自らトキの放鳥に向けての取り組みや、世界文化遺産登録運動、佐渡誘客のために積極的なPRをしていただきました。佐渡ブースでは、お酒と西三川りんごジュース試飲、佐渡のアンケートでJA佐渡提供のコシヒカリ(300g入り)プレゼントや、小木・直江津航路利用促進のための佐渡の船旅(後日抽選)プレゼント等に来場者が殺到し、トキファンクラブの入会呼びかけや、DVDでの佐渡紹介にも耳を傾けていただきました。佐渡の観光宣伝を含めて、それぞれが来場者とコミュニケーションを図ることができ、準備から5日間、お手伝いいただいた方々に感謝をいた



すとともに、来場された多くの方々の中から来島される人が増えることを願い、無事日程を終えました。

(新潟県離島振興協議会事務局)

世界遺産登録に向けて

佐渡市長 高野宏一郎

随想
ゆめ飛行

No. 13

5月12日に佐和田で世界遺産登録に向けて、「金・銀・銅サミット in 佐渡」が開催されました。昨年、島根県大田市で第1回サミットが開催され、石見銀山遺跡の登録に向けて氣勢を上げましたが、第2回目は昨年惜しくも国内暫定リスト記載に継続審査となった佐渡に誘致したものです。泉田知事も積極的にかかわっていただき、前日のレセプションに参加されただけでなく、翌朝には念願の上相川地区を踏査され、そこから一旦、県庁に戻られて公務をこなし、すぐ午後の基調講演に戻ってこられたという熱の入れ方でした。

その後、石見銀山遺跡の島根県大田市の竹腰市長、別子銅山遺跡の愛媛県新居浜市の佐々木市長、佐渡市長の3人と奈良文化財研究所上席研究員で世界遺産登録に詳しい村上隆先生を司会に、「鉱山遺跡を未来に活かす」というテーマでパネルディスカッションを行いました。会場に参加された方々は1200名を数え満員の熱気の中で、これから3市の世界遺産化を目指した協力とネットワークを強める力強い確認がされました。

ところで、その日の夕方、国連教育科学文化機関(ユネスコ)の諮問機関、国際記念物遺跡会議(イコモス、本部・パリ)が、石見銀山遺跡については登録を延期するという報が流れ、重苦しい空気に包まれました。6月23日から7月2日にかけてコージランドで世界遺産委員会が開催されることから、まだ確定はしていませんが、先輩格の石見銀山遺跡の結果次第では佐渡も大きな影響を受けることになりそうです。最近、世界遺産登録が人気を集める一方、採掘基準が厳しくなり、登録が遅れている国々が優先されるなどの様子が伺われていて、全島、全県挙げての盛り上がりが必要とされますし、今後は石見銀山遺跡と連携した活動が必要になることも予想されています。

